

都市再生整備計画 事後評価シート  
端間駅周辺地区

平成24年2月

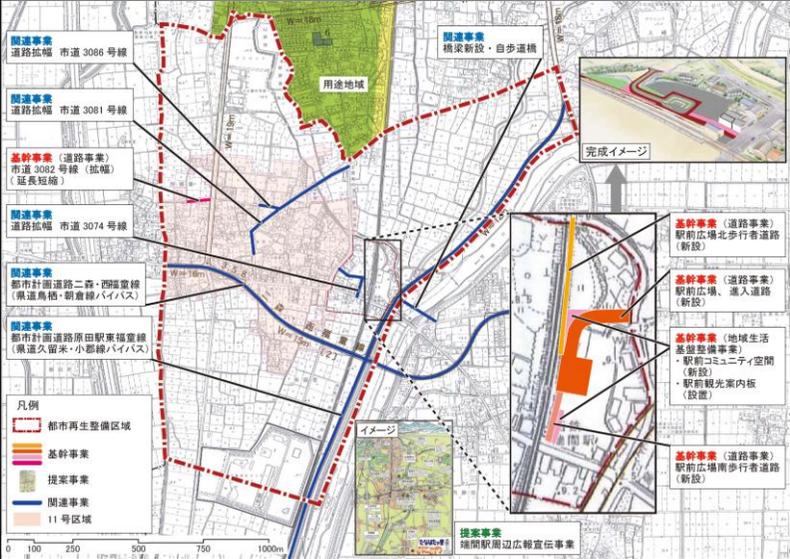
福岡県小郡市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	小都市	地区名	端間駅周辺地区			面積	156ha
交付期間	平成19年度～平成23年度	事後評価実施時期	平成23年度	交付対象事業費	309百万円	国費率	0.4		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名											
	基幹事業	提案事業	道路〔駅前広場・進入道路(新設)、駅前広場北歩行者道路(新設)、駅前広場南歩行者道路(新設)〕、地域生活基盤施設(コミュニティ空間新設、観光案内板設置)											
当初計画から削除した事業	事業名		削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響							
	基幹事業	道路〔市道3081号線(拡幅)、市道3086号線(拡幅)〕	道路用地に関して合意形成段階であるため、交付期間中に事業着手できないと判断した。				数値指標〔歩行者の満足度〕に関連するが、目標値は据え置く。							
	提案事業	道路〔県道鳥栖朝倉線(歩道整備)〕	県事業の県道久留米小郡線バイパスの交差点改良の中で実施することとなった。				影響なし							
	提案事業	なし												
新たに追加した事業	基幹事業	道路〔市道3082号線(拡幅)〕	他の道路事業を実施していたところ、当該地区においても安心・安全のまちづくりの気運が高まったことから同事業を追加。				数値指標〔歩行者の満足度〕に関連するが、目標値は据え置く。							
	提案事業	なし												
交付期間の変更	当初	平成19年度～平成23年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		変更なし									
	変更	平成19年度～平成23年度												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値								
	指標1	西鉄端間駅の乗降客数	人/日	2,056	H16	2,000	H23	●	1,760	△	あり	高齢化による通勤・通学者の大幅な減少が影響した。しかし駅前広場やアクセス道路を整備することで、乗降客数の減少を少しでも食い止められたことは評価できる。	平成24年4月	
	指標2	歩行環境の満足度	%	25	H14	70	H23	●	42	77	○	あり	端間駅駅前広場、駅までのアクセス道路や生活道路の整備、バイパス整備による通過交通の減少等により、歩行者の安全性が向上した。	平成24年4月
	指標3	観光者数	人/日	200	H18	300	H23	●		270	△	あり	端間駅周辺広報宣伝事業等により、端間駅周辺の地域資源や行事を多くの方に知ってもらえた。	平成24年6月
	指標4										あり			
指標5										あり				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値								
	その他の数値指標1	西鉄端間駅の利用に対する満足度	%	20	H14			●	43		あり	端間駅には駅前広場がなく、駅までの送迎等が難しかったが、駅前広場や駅までの歩行者道路を整備することで端間駅までのアクセス性が向上した。	平成24年4月	
	その他の数値指標2													
その他の数値指標3														
4)定性的な効果発現状況	平成23年8月に実施した端間駅周辺地区に関するアンケートでは、「湧き水などをテーマにしたまちづくりが実施できれば楽しい」、「駅前広場に公募によるモニュメントを設置したら、話題性もあり地域のPRになる」など、まちづくりに対して積極的な意見がみられた。													
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等							
	モニタリング	端間駅周辺地区(西部地区)まちづくりに関するアンケート調査	都市再生整備計画に記載し、実施できた				平成24年度にフォローアップを実施予定。端間駅周辺地区住民に対し、端間駅の利用に対する満足度についてアンケートを実施する。							
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
住民参加プロセス	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた												
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した												
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった												
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた												
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した												
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった												

様式2-2 地区の概要

端間駅周辺地区(福岡県小郡市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
<b>安全に安心して快適に暮らせるまちづくり</b> ・西鉄端間駅周辺は都市計画法に基づく地区計画を策定し、駅前広場や道路、歩行者道等の整備を行い、駅へのアクセス向上、歩行者の安全確保、駅利用者の利便性向上を図る。 ・地区計画区域外の既存集落内は、生活道路の整備による生活環境の向上、及び幹線道路からの通過交通等の排除を図るとともに、安全、快適に暮らせる「高齢者、子供にやさしいまちづくり」を図る。 ・地区内外の観光資源を活用し、集落の活性化を図る。		西鉄端間駅の乗降客数	単位: 人/日	2,056	H16	2,000	H23	1,760	H23
		歩行環境の満足度	単位: %	25	H14	70	H23	77	H23
		観光者数	単位: 人/日	200	H18	300	H23	270	H23
		西鉄端間駅の利用に対する満足度	単位: %	20	H14	-	-	43	H23
						【西鉄端間駅までの歩行者道路（北側）】 【平成24年3月末に工事完了予定の西鉄端間駅前広場】			
まちの課題の変化	○端間駅までのアクセス性の向上: 主に、以下の2つの事業を実施したことで改善がみられる。 ・端間駅前広場の新設(=自動車のアクセス向上) ・端間駅までの歩行者道の新設(=歩行者のアクセス向上) ○駅から距離がある場所にお住まいの高齢者等(交通弱者)の移動手段の確保が必要である。(=公共交通等によるアクセス性向上) ○歩行者の安全性・快適性の向上: 重点的に整備すべき狭隘道路に対し、道路の拡幅等を実施するとともに、バイパスの整備により通過交通を排除したことで、安全で快適な歩行者空間が形成された。 ○端間駅東部地区に比べ、西部地区の市街地整備が遅れている。 ○観光客の誘致: 端間駅周辺広報宣伝事業や観光案内版の設置により、観光情報発信が充実化された。 ○端間駅周辺では、宝満川や田園の美しい風景、湧水、寺等の地域資源を有しているが、それらを十分に活かしていない面がある。また、小郡市総合保健福祉センターあすてらすや福童浄化センターは集客が見込めることから、これらの施設を地域資源として考えていく必要がある。								
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	○現在、端間駅までの送迎車は、県道14号沿いの改札付近に停車するケースが多いが、交通混雑の原因となっており、今後、駅前ロータリーへの誘導を図っていく。また、地域住民の意向を踏まえ、端間駅東西のアクセス動線の強化について検討する。 ○端間駅の乗降客数が減少している要因の1つに、端間駅からの二次交通が不足していることが考えられる。従って、端間駅の駅勢圏居住者のコミュニティバス等の二次交通に対するニーズの分析を行った上で、望ましい便数、時間帯、ルートや、駅前ロータリーへのコミュニティバスの引き込み等について検討を行うとともに、自動車通勤者の電車通勤へのモーダルシフトを促す。 ○高齢者等が安心して生活できる地域を目指し、幹線道路での歩道の設置、バリアフリーを推進するとともに、地域住民との協働作業による歩行者空間の美化活動等について検討する。 ○「端間駅周辺地区地区計画(H19年3月)」では、端間駅東部地区においては地区整備計画を策定しているものの、端間駅西部地区では未策定である。従って、西部地区においてもまちづくりの具体的なプランである地区整備計画を策定し、店舗、医療施設等の誘致を検討するなど、良好な生活環境の実現を目指す。 ○地域住民が地域資源について再考する機会を提供し、地域活力の向上並びに地域コミュニティの強化に活用する。 ○地域に点在する観光資源をテーマ性のあるモデルコースとして結びつけることで、相乗的活用を図るとともに、周遊性を高めるため、案内サインの設置等について検討する。また、福岡市や熊本県でのPRなど、広域的な観光客誘致について検討する。								